



下関西高等学校 進路だより

令和7年9月号 進路指導部

～実りの秋、読書の秋、そして共通テスト出願の秋～

体育大会も終わり、総合型選抜の出願が9月1日より開始。いよいよ受験シーズンが始まりましたね。3年生は今までの様々な学習成果が本当の意味で問われることになり、その一方で、今後の追い込み次第でまだまだ身につけられる受験学力が山ほどあります。2学期は模擬試験と講演会などの進路関係の行事が多く実施されます。特に模擬試験は結果に一喜一憂するのではなく、**復習教材として有効活用して欲しい**と思います。特に「**設問文を丁寧に読んで理解すること**」「**不明な語彙はこまめに辞書を引くこと**」「**なんとなくではなく、明確に理解すること**」「**時間配分を意識すること**」「**普段から日常生活の現象と結びつけて学習すること**」「**本気で自分の解答を書く努力をすること**」「**沢山失敗すること**」などを意識して取り組み、しっかりと課題を発見し、入試本番までに完全に解決して自信を持って臨めるようにしてください。模擬試験以外の進路関係行事についても君たちが「**自分と向き合うきっかけ**」となるように考えて準備していますので是非、前向きに取り組んでください。今回は進路関係行事のレディネスになるようにと考え、去る6月13日（金）に山形県立東桜学館高校の延沢恵理子先生をお迎えして実施した全校進路講演会の3年生の感想文を一部掲載し、共有したいと思いますので熟読してください。

<3年生の感想文>

- ・今の社会で教育を受けるという手段以外で学ぶことは難しいのですが教育を受けるだけで自分の手で学ぼうとする姿勢がない受動的な生き方はたとえ偏差値の高い大学や給料の高い企業に入ることができたとしても面白くないのではないかと思います。
- ・大学側がどういう人を求めているかというのをあまり考えたことがなかったので、自分が行きたいと思う気持ちだけでなく自分がその大学の入試方法に合っているかなど新たな視点を見つけることができました。最後の話で前期試験が不合格で、追い詰められた女子生徒がいつもは身なりを綺麗にしていたのに、後期試験の前は、髪をボサボサにし、涙を流しながら勉強していたというのを聞いて、自分は受験生なのにまだまだ意識が足りていなかったと思い知らされました。これからはそういった人たちと受験で競争して行くという意識を頭に入れてプレッシャーをかけていながら本気で受験勉強に取り組んでいきます。
- ・僕たち3年生がこれから大学を受験して行くにあたって目指すべきものは、受験における完全燃焼だと思います。3月になって全ての試験を終え卒業した後、本気で自分に向き合い勉強できたという経験が結果の良い悪いに関わらず必ず将来に生きてくると思います。不完全なまま大学に入っても適当な生活を送ってしまうのではないかと感じてしまいました。それを防ぐためには行ける大学ではなく自分自身にとってチャレンジできる大学を目指し、つらさを一緒に分かち合い乗り越えてくれるような仲間が存在が大切だとわかりました。これから、モチベーションを保ち毎日の勉強がいくら辛く苦しくてもいつか青春と感じられるようにしたいです。そのためにも完全燃焼は必ず成し遂げたいです。
- ・一番印象に残ったことは、受験のメリットについて教えていただいたことです。私は今まで受験のメリットなんて考えたことがなく、適当に受験勉強をしていました。先生のお話を聞いて、受験は「本気で自分と向き合える」「自分を成長させる」機会でもあることを知り、とても驚きました。
- ・先生の言葉で特に印象に残ったものが2つあります。1つ目は、「できるかできないかではなく、やるかやらないか」という言葉です。私は3年前入学してから、周りのレベルの高さに圧倒されて、諦めてしまっていたことがありました。そのまま3年生になり、受験生としてスイッチが入りきっていないままでしたが、この言葉を聞いて、「やらなければ」と思いました。遅すぎたスタートかもしれませんが、「やれることはやった」と胸を張って入試に臨めるようコツコツ勉強（裏面につづく）

しようと思いました。2つめは「受験というのは親離れのチャンスでもある」という言葉です。私は最初この言葉を聞いたとき意味が分かりませんでした。しかし、先生のお話を聞くと、自分で成長するためには本気で自分で向き合うこと、自律そしてひとりで生きていくための大切な期間だということがよく分かりました。今は周りが見えなくなってしまう時期だけれど、それでも大学受験をさせてもらえるこの状況・環境に感謝して乗り越えたいとも思っています。この受験を応援し、支えてくれた先生方、友達、家族、そしてもちろん自分自身を誇れる人になりたいとも強く思いました。これからの人生、辛いことや苦しいことが待っていると思います。でも、残す200日、生活はこれから何倍も濃く、意味のあるものにしていきたいです。

- ・私が最も印象に残っていたのは「どんな大人になりたいかが大事」という言葉です。進路や受験というと、どうしても成績や偏差値、合格するか否かを意識しがちですが、最終的には自分がどんな人生を送りたいか、どう生きたいかを考えることが同じくらい大切だと感じました。「受験は自分自身との戦い」「目標に向き合う力、人生との向き合う力」という言葉もあり、志望校合格を目指すだけでなく、その過程で自分自身を見つめ直すことが大事だというお話でした。どれだけ努力を重ねても結果＝賞賛のないこともあります。それでも努力すること、挑戦することに価値があるという考えにもとても励まされました。
- ・大学入試では英語の点が重視されている理由についても初めて知ることができました。英語は小学時代に塾に行っていない限り、一斉にスタートする教科であり勉強すればするほど成績が伸びます。そのため英語を見て努力指数がわかるというものでした。私は小学生の頃から英語教室に通っていて比較的、英語が得意なほうなのですが、これからも英語を武器にして行けるよう努力して行きたいです。また、今日のお話の中で一番驚いたことは中国と日本の勉強に対する姿勢の違いです。中国は日本と違って朝7時半から自学が始まり、その後、45分9コマで朝から夜まで勉強し続け、大学受験も今までの積み重ねの点数がそのまま反映されると知りました。私たちには共通テストを受けるまでの時間的な猶予があるので一日も無駄にならないような生活を送りたいと思います。
- ・お話を聞いて、驚いたことが2つあります。1つ目は、社会の変化は私の想像以上に進んでいるということです。特に印象に残ったのは、「1人のリーダーにみんながついていく時代」から「1人1人がリーダーとして活躍し、みんなを率いていく時代」に変わったという話です。前は何も考えずに大勢の人が1人の人についていくだけでも良しとされていたようですが、今はそれが通用しなくなり、「1人1人が自分で考えて、自ら積極的に動ける人」が重宝される社会となり、正直、大変だなと思いました。そして、西高で行われている「探究活動」ではその力を鍛えるためにあるんだと分かりました。2つ目は、入試は以前よりさらに学力重視型になったということです。私は一般入試と合わせて総合型選抜を受けようと思っているのですが、「総合型選抜」は学力不問入試ではないという話を聞いて少しドキッとしました。自分をしっかりアピールすることも大事ですが、学力も底上げして、自分のできることを伸ばしていこうと思いました。
- ・特に印象的だったのは語彙力の重要性についてです。言語には個人内言語と共通言語があるという話は知っていたようで知らなかったことでした。共通言語で話さなければ伝わらないから、国語を学んでいるのだと知り、納得しました。私は思えば今まで何度も他人に言っていることが理解されないことがあり、それは恐らく個人内言語で話していたからだと気づきました。これからは他者に理解されることを重視して話していこうと思います。そのためには学び続けることが大事なので、そのことを目標に頑張りたいです。
- ・今回の話で私が最も印象に残ったのは「どんな大人になりたいかが大事」という言葉です。進路や受験というとどうしても点数や偏差値、合格するかに意識が向きがちですが、最終的には自分がどんな人生を送りたいかどう生きたいかを考えることがとても大切だと改めて感じました。「受験は自分を知るための手段」「周りとの向き合い方、人生との向き合い方」といった言葉もあり、ただ合格を目指すだけでなく、その過程で自分自身を見つめ直すことが大事だとわかりました。どれだけ努力を重ねても結果に繋がらないこともあります。それでも努力すること挑戦することに価値があるという考え方に励まされました。

(文責・松村)